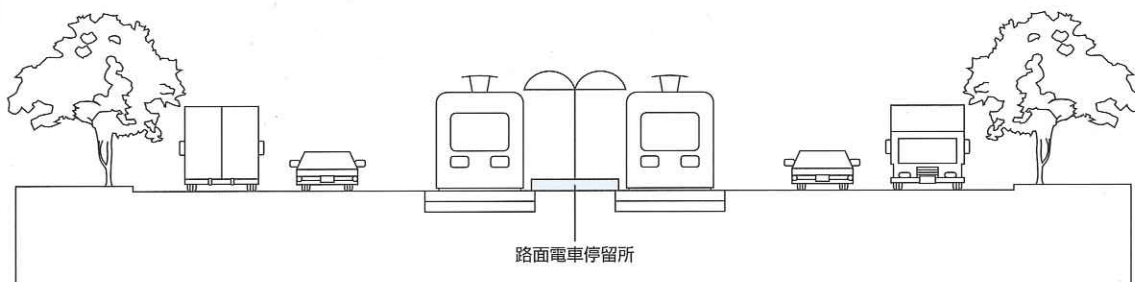


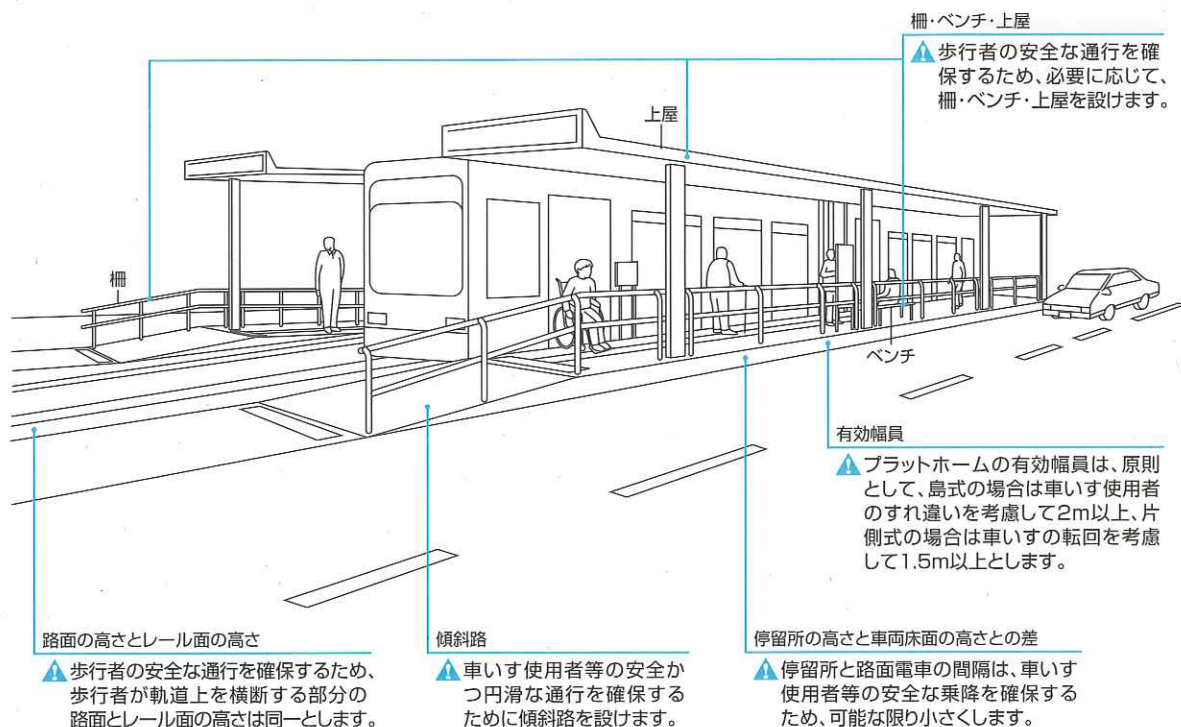
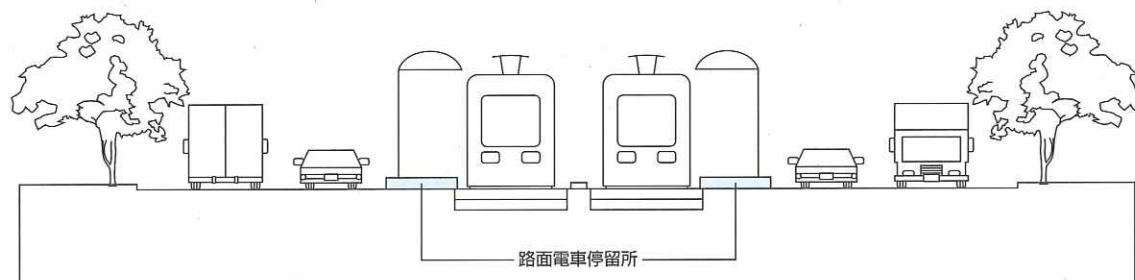
(7) バス停留所・タクシー乗り場・路面電車停留所②

路面電車停留所

島式



片側式



コラム

心のバリアフリーを進めるために

7 目の不自由な人への配慮③

■ 介助の方法

● 自動車と一緒に乗る

(介助を受ける人が先に乗ります。)

- ① 介助をする人がドアを開け、受ける人の手を開いたドアの上の縁に導きます。
- ② 介助を受ける人は、手でドアと屋根を確認し、席の端に腰をかけてから足を車内に入れて奥に入ります。
- ③ 介助をする人は、後から乗車しドアを閉めます。

● 自動車から一緒に降りる

(介助をする人が先に降ります。)

- ① 車が停車したら、介助をする人が先に降ります。
- ② 介助を受ける人は、足から外に出し、片手を開いているドアの上に置き座席から離れます。
- ③ 介助をする人は、受ける人が降りた後、すぐに手をとって介助をする体勢をとります。



● バスに乗る

- ① 介助をする人は、乗車口に直角に向いて立ち止まり、バスに乗車することを伝えます。
- ② ステップに上がるとき、介助をする人は受ける人の手をステップの手すりに導き、一段ごとに両足を着きながら、介助を受ける人の動きにあわせてゆっくりと上ります。
- ③ 乗車したら、発車の勢いで倒れないように、必ずどちらかがつり革が手すりをつかむようにします。
- ④ 着席させる場合、必ずどちらかがつり革が手すりにつかまるようにします。(バスが止まっている時に行うようにします。)

● バスから降りる

- ① 介助をする人は、下車するバス停の1つ前では必ず次のバス停で下車することを伝えるようにします。
- ② 介助をする人は、バスが停車してから降り口に向かって移動し、ステップに向かって直角に向いて立ち止まります。
- ③ ステップを降りるとき、介助をする人は受ける人の手をステップの手すりに導き、一段ごとに両足を着きながら、介助を受ける人の動きにあわせてゆっくりと降ります。
- ④ うしろから来るバイクや自転車などは大変危険ですので、介助をする人は十分注意をする必要があります。



● バスの行き先

行き先のアナウンスがなかったときやバス停で一度に何台もバスが来たときは、「どこ行きに乗られますか?」「〇〇行きです」などと声をかけてください。

■ その他の介助やお手伝い

● 切符を買うとき

自動販売機に点字表示がないときは、目的地までの運賃を教えてあげましょう。但し、原則として、お金の扱いは本人にしてもらいます。



● 店員の配慮

目の不自由な人が来店したら、声をかけてください。店員や商品の位置などがわからず戸惑うことがあります。商品を探している様子の時は、「何を探していますか」などとひと声かけてください。商品の説明は、その内容がイメージできるように、色や形、大きさ、値段などを説明しましょう。

また、缶入り飲料など触れただけでは中身のわからないものは、点字表示をすることが望まれます。飲食店では点字メニューがあると便利です。

● レジでの支払い

原則として、お金の扱いは本人にしてもらいます。支払いを頼まれたときは、渡された金額を声を出して支払い、お釣りの額も紙幣と硬貨でそれぞれ種類別に説明しながら渡すとわかりやすいでしょう。



● テーブル上の物の位置

テーブルの上を時計の文字盤に見立て、目の不自由な人を6時の位置として、例えば「ナイフは4時、フォークは8時の位置にあります」というように説明をするとわかりやすくなります。

また、テーブルを大きく4つに分割して、「右下にナイフ」「左下にフォーク」という方法もあります。

もちろん、直接手を物に導く方法があります。(やけどをする危険があるときは、この方法が望ましい。)

